

2024. 5. 23 (木) 第 94 回「ゲーテの会」開催概要



2024年5月23日(木)18時から国際高等研究所コミュニティホールにおいて、第94回満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲーテの会」が、ハイブリッド方式(対面と遠隔)で開催されました。演題は『「自心の源底」を尋ねて～空海くわいの生命論の一視点～』。講師は竹村牧男先生(東洋大学名誉教授)。会場参加者約30名を迎え、全国から約130名に上るオンライン参加による視聴希望があり、「空海」への関心の高さが伺えました。

初めに、演題『「自心の源底」を尋ねて～空海くわいの生命論の一視点～』にある「自心の源底」の語句の出处が、空海くわいの主要著書『十住心論』の冒頭にある「秘密莊嚴住心といっぱ、即ち是れ究竟じて自心の源底を覚知し、実の如く自身の数量を証悟するなり」の文章にあるとの紹介。続いて、その「十住心」の第一「凡夫」から始め、第四「声聞乘」から第九「華嚴宗」の大乗仏教を経て、最高位の第十「真言密教」に至る、その各段階における「心」の有り様の解説がありました。



続いて、空海くわいによって伝えられた曼荼羅(『大日経』に基づく「胎藏海会の曼荼羅」、『金剛頂経』に基づく「金剛界会の曼荼羅」と四種曼荼羅との二重構造などの解説に基づきつつ、真言密教の核心に触れる言葉「即身成仏」に関わって、「即身」とは「この身に即して」ではなく「他者と相即する身」のこと、「重重帝網」のごとく「自己」と「他者」、「自己」と「諸仏諸尊」は相即渉入の関係であると解すべきこと、そして、そこに一個の「いのち」があるなどと、丁寧な説明がありました。

質疑応答では、会場から、またオンラインで多くの質問が寄せられました。①世界の外に超越神を認めるキリスト教は、絶対を絶対に否定し相対世界に返る真言密教の考えに包含されることになるのではないか。②真言密教の「即身成仏」に関わって、それは浄土真宗の「平生業成(死して仏となるのではないの主旨)」の言葉と共鳴するのではないか。③自己と他者との関係に関わって、「他者」とは、人間に限らず動植物、さらに山川などの自然も含むのか、空海くわいの視野は人類全体に及んでいたのかなどと、世界平和を展望するに足る思想がそこにはあるのではないかとの指摘もあり、世界観、人間観、死生観など多岐にわたるものでした。現代社会の抱えている問題に深く迫ろうとする気迫に満ちた真摯な質疑応答が続きました。(M)

